

# 預かり保育の在り方

## 徳島県

### 1 研究テーマ及び研究の観点

#### (1) 研究テーマ

地域のボランティアを活用した「預かり保育」の在り方

#### (2) 研究の観点

本県では、国の動向等を踏まえ、平成21年3月「徳島県幼児教育振興アクションプラン」を策定し、幼児教育の充実に努めている。本プランの施策の基本方針の一つとして、預かり保育の推進を掲げており、市町村と連携・協力しながら、地域の実態や保護者のニーズに応じた預かり保育の充実の推進を図っている。

幼児の健やかな成長のためには、幼稚園、家庭、地域社会がそれぞれの教育機能を発揮しながら連携して取り組むことが重要である。

本研究では、まず、地域の実情を踏まえながら、地域の人的資源の発掘と人材育成を進め、地域の教育力の再生・向上を図るために、地域のボランティアを積極的に活用した、多様な教育活動の在り方を探り、提案していくこととした。また、幼稚園が地域のセンター的役割を果たしながら、地域の人材の活性化とネットワーク化を図り、同時に幼稚園における預かり保育の充実を図ろうとするものである。さらに、本研究の成果を県下に普及することで、県内の預かり保育の充実・推進に努める。

### 2 地域の概要

地域の範囲 (市区町村名)	人口	幼稚園		小学校		保育所	
		幼稚園数	幼児数	学校数	児童数	保育所数	幼児数
阿南市	千人 78	(国) 園	人	校	人	園	人
		(公) 10	625	(公) 22	4,413	(公) 24	1,867
		(私) 3		(私) 0		(私) 5	
美馬市	33	(国) 園	414	(国) 0	1,574	(公) 6	387
		(公) 15		(公) 17		(私) 0	
		(私) 3		(私) 0			
合計	111	28	1,039	39	5,987	35	2,254

(平成21年5月1日現在)

#### (1) 阿南市

核家族化や女性の社会進出の増加に加え、出生率の低下による少子化が一段と進むなど、大きく変貌している。このような状況下の中で阿南市では、第4次阿南市総合後期計画や次世代育成支援行動計画により幼稚園と保育所の機能を一体化させた「認定こども園」制度を推進し、就学前の子どもが安全ですこやかに成長できる施設整備

を進めている。

#### (2) 美馬市

本市の教育を取り巻く状況を見ると、急激な核家族化による保護者の子育て不安、子どもの安全、子どもの人口減少に伴う学校の小規模化への対応等多くの課題がある。

本市においては、幼稚園や保育所の小規模化が進む中、子ども集団の編成が困難な実態もあり、次世代育成支援の観点、教育と保育を一体的に実施するための幼保一体化に向けての推進に取り組んでいる。

### 3 研究協力機関

阿南市立横見幼稚園、加茂谷幼稚園、大野幼稚園

新野幼稚園、新野東幼稚園、見能林幼稚園

美馬市立江原南幼稚園

### 4 研究の内容及び方法

#### (1) 地域のボランティアの積極的活用について

ア 地域における支援体制を確立する。

イ 地域支援協議会を立ち上げる。

イ 人材コーディネーターを選出し、コーディネーターを中心に、人材バンクを設置する。

イ ワーキンググループによるボランティアの募集と人材バンクへの登録を行う。

ウ 地域のボランティアを活用した預かり保育に取り組む。

#### (2) 預かり保育の内容についての協議とボランティア研修について

ア 第1回調査研究実行委員会において、研究体制及び研究テーマ等の確認と全体計画の確認を行う。

イ 地域支援協議会において協議し、各園の実態や預かり保育へのボランティア参加の仕方や支援内容について共通理解する。

ウ ボランティア研修会において幼児理解やかかわり方について研修する。

#### (3) 地域のボランティアを活用した預かり保育の実践について

ア 異なったスタイルで預かり保育を行っている阿南市(各園において預かり保育を実施)と美馬市(近隣4園より希望者が集まるセンター方式で実施)において実践を進める。両市とも、保護者の学びや育

児の喜びに関連付けていく育成型の支援を目指して、次のような預かり保育を進めた。

(ア) 阿南市における取組

・預かり保育のスタイル

平成11年より、市内6園(10園中)において「子育て支援保育」の名称で預かり保育を実施している。子育て支援保育士が中心となって家庭的な雰囲気を大切にして、幼児たちが落ち着いて過ごせるように配慮するなどして進めた。

・地域のボランティア活用

人材バンクのコーディネーターを中心に各園で人材バンクを立ち上げた。これまでに幼稚園とかかわりの深かった人からその仲間へとネットワークを広げていった。各園で教育課程や指導計画を見直し、よりふさわしい教育内容を加えるという発想でボランティアに支援してほしい事柄を依頼した。

・預かり保育の特徴

ボランティアとふれあひながら地域の自然や文化との出会いをコーディネートし、地域の人的資源や自然・文化資源とつながる午後の過ごし方を考えた。

・活動例

おやつづくり、ネイチャーゲーム、散歩、買い物、運動遊び、科学遊び、絵本の読み聞かせ、昔遊び、村祭りへの参加、稲刈りなど農作業の見学、生け花・フラワーアレンジメント 他

(イ) 美馬市における取組

・預かり保育のスタイル

近隣4園から拠点園に集まるセンター方式で、担当職員が中心となって預かり保育を進める。過疎の町には一緒に遊ぶ友達も少ない状況なので、預かり保育で友達とかかわり、幼児期にふさわしい集団生活を保障しようとするねらいをもって行った。

・地域のボランティア活用

人材バンクを立ち上げ、季節や時期に合った活動内容を選定する。人材バンクには小学生から85歳の高齢者まで35人が登録している。

・預かり保育の特徴

幼稚園側のニーズを人材バンクのコーディネーターに伝え、計画的にボランティアが預かり保育に参加する。いろいろな特技や個性をもったボランティアとの出会いで幼児たちの世界が広がっていくような取り組みを進めた。

・活動例

おやつづくり、工作、散歩、手話、リズム遊び・ゲーム、絵本の読み聞かせ、昔遊び、地域の行事への参加、茶道・生け花・小学生との遊び・クラブ活動の見学、手遊び 他

イ 地域のボランティアを活用した預かり保育の指導計画や実践内容・反省と評価や改善プランについて記録する。

ウ 預かり保育の実施状況について、地域支援協議会において協議し、改善・修正を行う。

(4) 評価について

ア 諸会の立ち上げから実施までの取り組みの過程やその成果・諸課題等について記録する。

イ 7月には関係教職員に対して、2月には関係教職員・ボランティア・保護者に対してアンケート調査を行い、分析・考察する。

ウ 地域支援協議会において協議し、成果と課題について明らかにする。

エ 「徳島県幼児教育推進フォーラム」を開催し、地域の教育力を活用した幼稚園における預かり保育の在り方についての実践例を発表し、協議するとともに、岩立京子東京学芸大学教授による指導・講評等を受け、事業内容についてまとめる。

(5) まとめと普及について

事業の成果等をまとめてリーフレットを作成し、ボランティアを積極的に活用した預かり保育における多様な教育活動の在り方と実践上の諸課題について提案する。

## 5 研究の成果及び今後の課題

(1) 研究成果

ア 地域人材の活性化とネットワーク化について

(ア) 地域における支援体制の確立

・地域支援協議会

阿南市・美馬市ともに、地域に存在する手話サークルや絵本の読み聞かせサークルなどのボランティアグループや婦人会・退職校団長会等の団体を通じて地域支援協議会を組織した。各地域にはすでに活動している組織が多く存在しており、これらのネットワーク化を図っていくことが、地域の人的資源の開発や活用のポイントとなった。

・人材バンク

地域支援協議会から人材コーディネーターを選出し、コーディネーターを中心に人材バンクを設置した。地域で熱心な活動を進め広い人脈をもつコーディネーターによって、様々な特技をもつ人材や幼稚園教育に関心をもつ人材が集

められた。幼稚園への多様な支援内容が提案されるなどの成果があった。

(イ) ボランティアの募集と人材バンク

地域支援協議会のワーキンググループによるボランティアの募集と人材バンクへの登録を行った。これは、より広く地域の人々に幼稚園教育について理解してもらうことに効果があった。反面、いろいろな人が預かり保育に参加することによる課題も生じてきた。幼児のプライバシー保護や勧誘行為の抑止等もその一つである。

人材バンクは、幼稚園が直接ボランティアとやりとりして言いにくい事柄について伝える場合の緩衝材としても効果的に働いた。また、互いを補い合ったり注意し合ったりできるようなボランティア同士のグルーピングも効果があった。

(ウ) 地域支援協議会とボランティア研修

まず、地域支援協議会において協議し、各園の実態や預かり保育へのボランティア参加の仕方や支援内容についての共通理解を促した。このことで、取組の目的と活動の全体像を把握できた。

ボランティア研修会において幼児期の発達特性や具体的な幼児理解やかかわり方について研修を行ったことは、ボランティアの不安を軽減させる効果があったとともに、参加についての心構えやルールの伝達にも役立った。

イ 預かり保育の充実について

(ア) 保育の構想や展開について

保育の構想や展開には大変効果があった。当初、「もっと充実していきたいが人的な問題がある」という課題が、ボランティアの活用によって改善されたことが要因であると考えられる。「幼児が地域の様々な人たちと出会い、人とかがわる力がついてきた」「職員も地域の方々と接し、地域のいろいろなことを知り、親しく感じるようになった」「家では経験できない昔の遊びをしてくれた」「多様な体験をする機会がもてて充実していた」などの評価が多かった。

活動の進め方については、ボランティアと事前の話し合いをもつことで、保育に構想をもち、活動の展開に工夫ができた。教職員が、ボランティアとの話し合いを行う中で保育の構想が練られたことや、反省・考察が進められていったことが活動展開の工夫にもつながっていった。逆に事前の話し合いや活動後の反省が十分にできなかった場合は、ボランティアの活用による成果は少なく、「任せっきりになってしまった」という反省が

残った。

教育課程とのつながりやバランスの確保については、教育課程内ではできにくい活動をボランティアに依頼した園では評価が上がっている。一方、教育課程内の活動と預かり保育での活動の関連性を求めている園での評価は下がっている。一連の流れで園生活をコーディネートすることの難しさに起因すると考えられるが、教育課程内・外の保育の質的变化やメリハリなどについての研究も必要である。この他、預かり保育での活動が、教育課程内の活動を活性化したなどの報告は全園から上がっている。

(イ) 教職員の充実感

ボランティアの活用による活動内容の充実や幼児の変容、教職員自身の学びなどが充実感につながっていた。

「日ごろ体験できないことをさせることができ、幼児が生き生きと活動している姿を見るとうれしくなる」「園外保育に出かけるとき、安全面で十分に配慮していただき、安心して出かけることができた」「いろいろな年代の方が来てくださり、その子に合ったかかわりをしてくださるので、幼児たちも親しみをもって接している」「職員自身が体験したことのないことを体験できて勉強になった」などの評価が多かった。「先生とは違ったボランティアの方々の個性やかかわり方で、午後の生活に変化がついた」「幼児の情緒が安定して、言葉遣いをはじめ、生活習慣の改善も促された」「ボランティアの方を午前中の保育に参加してもらうなど、教育課程内の教育活動充実を図るヒントもたくさんあった」等の報告もあった。

勤務状況については、アンケートで、ボランティアの参加により勤務状況に変化があったのは20%程度である。主な理由は、「手伝っていただき、ゆとりをもって教材の準備ができた」「一人一人の幼児によりかかわることができた」等である。また、ボランティアへの対応に時間を割くこともあるということもあった。しかし、「それは決して苦にならなかった。幼稚園が地域と連携を図る上では大変有効な時間であった」とのことであった。ボランティアの活用は勤務内容の軽減には至らなかったが、幼児たちの生活の充実を願う教職員の充実感につながっていた。

(ウ) 地域のセンターとしての子育て支援について

幼稚園におけるボランティア活用の取組から、幼児が家庭や地域と様々な関係性をもち、つなが

ることができた。背景には、地域に詳しい人材やいろいろな特技をもっている人材がボランティアとして教育活動に参加することで、地域に存在している様々な環境や文化・人々と幼児たちを結びつける働きを果たしていった。また、幼児がこのような体験を家庭で話したり親を誘ったりすることで、家庭・家族と地域・地域の人々とはつながっていったという報告も多くあった。

つながると意識の根幹には、「共に子育てにかかわっている」連帯感のようなものも感じられた。保護者のアンケートにも、「忙しくてあまりかまっていられないので、ゆっくり話を聞いてもらってうれしそうです」「ボランティアの方との温かいかわりがもてて、とてもありがたいです」「普段させてあげられないことをたくさんしてもらっています。とてもいい経験ができています」と思います」等の感想が多かった。たくさんの人に支えられながら我が子が育っていることに感謝している様子が分かる。

ボランティアへのアンケートにも、「とても楽しかった、心が癒された」「自分が必要とされる喜びや一緒に活動する充実感を味わうことができた」等の感想が多くあった。未来の担い手である地域の幼児たちを、一緒に育てているという思いや、自分たちが子育ての支援に必要とされているという思いは生き甲斐にもなっているようだ。「次はどんなことをしよう」と考えると、生活に張りが出たとの感想も多かった。これからは、本当に必要な支援は何かについて率直に話し合いながら、よりよい関係を築いていきたいとの積極的な意見もあった。幼稚園ならではの子育ての支援が、人や地域の活性化につながっていた。

(2) 今後の課題

- ア 事前事後の話し合いを充実させ、目的や活動内容、役割を理解し援助し合えるようにするかが課題となる。
- イ 実施1年目においてはボランティアの提案してくれる様々な活動を取り入れて展開した。今後は教育課程・指導計画や幼児の心身の状態など、教育活動の全体的なバランスを考えながら内容を精選していくことが必要である。
- ウ 信頼関係にもとづく幼児や保護者のプライバシーに対する配慮とルール作りについて考えていく必要がある。
- エ 今回立ち上げた地域支援協議会や人材バンクを、各地域の学校園における教育活動の支援に資するよ

うな組織として位置付ける。